

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中で、その人らしくありのままに、安心して生活できる第二の我が家」と理念を掲げているが、スタッフ全員が地域密着サービスの役割を理解しているかは疑問である。	○	全スタッフが、地域密着サービスの役割の理解を深めるよう定期的に勉強会の開催を検討する。
○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には理念の唱和をし、地域のイベントに積極的参加しているが、全スタッフが理念の意味を理解しているかは疑問である。	○	地域のイベントとして、保育園の運動会や夕涼み会の参加、村祭りや文化祭、綱相撲大会の参加、また保育園児からの勤労感謝の慰問など、あるが当グループホームへの訪問は少ないので、更に交流を深められるよう検討する。
○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は玄関、ホール内に掲示している。また、利用案内時にはご家族、利用者には書面と口頭にて説明している。パンフレットや広報誌などは、当事業所全体のものとして作成しており、理念は記載してはいるが、事業所としての役割は記載している。	○	広報誌は月4回全村民やご家族、交流のある事業所等に配布している。パンフレットや広報誌への理念の記載は今後検討する。
2. 地域との支えあい			
○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	広報誌にてボランティアを募集し、ボランティアの受け入れ態勢は整っているが、参加者は殆んどない状態である。地域のイベントに参加して少しは、地域の方々に顔なじみになり、理解はされてきているように思われる。外部実習の受け入れ態勢は整っており、今年度も受け入れた。その際には利用者に関するプライバシーについての説明は十分に行なっている。	○	地域のイベントのみではなく、地域の方々が気軽に立ち寄れるような企画を考えたり、当グループホームを理解して頂けるような働きかけを検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全スタッフにて自己評価に取り組んでいる。また、外部評価については全スタッフ理解されていると思われる。結果については、会議などで報告し改善策の検討、今後のよりよいサービスに繋がるように改善に向けて取り組んでいる。</p>		<p>全スタッフにて取り組んでいる。</p>
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の意義や役割の説明をしていたが、理解には至っておらずご家族の参加がない状態である。以前は、自己評価、外部評価、について説明し、結果を公表し改善策についても報告し、意見交換を行っていた。</p>	○	<p>ご家族への理解得られるような働きかけをし、2ヶ月に1度の開催を目指していく。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>村の担当者へ、当事業所全体の広報誌配布している。また、自己評価、外部評価の結果についても提出し報告しているが、意見交換には至っていない。入居希望のある方には、説明も行なっている。</p>	○	<p>村の担当者と共に意見交換をし、改善に向けて取り組み、サービスの向上に繋がるように検討していく。</p>
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修への参加や年3回グループホーム合同勉強会を開催し、権利擁護事業や成年後見制度について行なっている。</p>		<p>合同勉強会にて行なっている。</p>
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修への参加や年3回グループホーム合同勉強会を開催し、虐待の防止について実施し行なっている。また、マニュアル作成し取り決めており、全スタッフ理解されていると思われる。</p>		<p>同上</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面と口頭にて説明をし、ご家族や利用者に理解得られている。その際疑問点や不明点に関し説明し、理解得られている。		契約書には同意のサインと捺印を2部頂きカルテに保管している。また、1部はご家族にお渡ししている。
○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満、苦情に関し、入浴時など個別になれる機会にて引き出している。また、その対応については、各棟会議等で意見交換し、改善に努めている。外部に意見を言える環境は今のところは用意されていない。	○	スタッフによっては言えたり、言えなかったりで、日頃から言えるような関係作りや働きかけができ、利用者の視点で考えられるよう知識の向上に努める。
○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に手紙や電話連絡をし、体調不良時や病院受診時にはその都度連絡し、報告している。金銭に関して出納帳に記載し、領収書を保管している。定期的にご家族に確認して頂き、領収書は手渡している。また、スタッフの異動時には報告している。	○	遠方の方のご家族に対し、面会時や郵送を考えているが、確実に行なえておらず検討し取り決める。
○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に用意し、体制も整っているが意見は、今のところない。	○	ご家族への理解と協力が得られるような働きかけと関係づくりをしていく。
○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、系列の事業所にて取りまとめておりスタッフの意見は反映されているかは分からない。		事前に入居希望者の情報に関し、簡単ではあるが知らせがある。
○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要人員配置の体制は整えられ、対応できている。急な休み等にはスタッフ確保の体制は出来ていない。		急な休みに対しては系列の事業所にも相談したり、公休スタッフに協力をしてもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの異動や離職等による配慮として、お別れ会や歓迎会を行い、戸惑いを最小限に出来るようにしているが、引継ぎは十分に行なえてはいない。</p>	○	<p>引継ぎや申し送りの時間を十分に取れる体制の検討をする。</p>
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画は立ててはいないが、自主的参加や個々のレベルにあった研修の参加促している。また研修後には復命書や伝達講習を行なっている。研修に参加に対し、業務扱いにて参加できるよう配慮している。</p>	○	<p>研修計画を立て、平均的に参加できるようにする。</p>
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会に参加促すことで、他業者との交流の機会を作り、情報交換等行いネットワーク作りを勧めケアの質の向上につなげている。</p>	○	<p>研修への積極的な参加を促していく。</p>
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に面談を行ない、悩みやストレスに関しアドバイスできるようにしている。また、飲み会を企画し気分転換を図っている。休憩時間はあるが、職員室が休憩場所となっておりくつろげる場とはなっていないと思われる。</p>	○	<p>休憩場所の確保についての意見は出てはいないが、空間作りの工夫は必要。</p>
<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現場の状況は報告し、把握していると思われ年2回の健康診断も行なっている。労働基準法に基づき労働条件や就業規則のマニュアルも作成してある。また、スタッフの実績や能力に応じた配慮になっているかは疑問である。</p>	○	<p>年2回実績や能力等の評価、判断をしている。その際の面談時には成果を伝え、向上の意欲へつなげている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>○初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談時、ご家族の悩みや相談を聞き、ご家族や利用者の希望やニーズを把握し思いに添えるような助言をしている。また、生活を有意義に出来るよう話し合い、信頼関係を築けるように努めている。</p>		<p>面談時以外にも、いつでも相談してもらえるよう伝えている。また、こちらからも相談したりと連絡を取れる体制を取っている。</p>
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者のご家族のニーズを踏まえ、グループホームで対応できることを実行している。また、ご家族に協力を得ながら、利用者らしく生活できるようにケアできるよう努めている。</p>		<p>生活の場が変化することでの不安に対する配慮に重点を置き、グループホームの環境に慣れるよう考え対応している。</p>
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者、ご家族の立場になれるよう希望やニーズを把握し、利用者らしく生活できるようにサービスの提供を行なっている。また、利用者やご家族の希望やニーズに添えるようなケアを立て、サービス内容の説明し同意を得ている。</p>		<p>面談時に利用者の情報をご家族から聞いたり、本人からの情報や生活の中での気づきを生かしたサービスを提供している。</p>
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の能力や意欲にあわせ、軽作業を行なったり、生活は利用者と共に決めている。また、その時の感情を受け入れ、その時に合わせた対応を行い、信頼関係を築けているスタッフもいるが、対応は人それぞれになっている。</p>	○	<p>認知症の理解不足と技術不足があるので、理解を深められるように勉強会を今後も継続していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面談時や面会時、行事の参加時など情報交換をし、また情報を引き出し、ご家族との関係作りをしている。ご家族や利用者の情報や気づきは、申し送り情報交換をし共有している。</p>	○	<p>遠方のご家族や面会の少ないご家族の関係作り工夫が必要。また、ご家族が遠慮している部分があり、スタッフとの交流を持てるようにし、ご家族の悩みや相談も気軽に言えるような関係を築きたい。</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>利用者、ご家族との関係が途切れないよう、お互いの思いに配慮し、面会時や電話連絡時にはさりげなく、情報交換をしている。また、遠方のご家族や面会の少ないご家族には電話連絡の他、写真を添えたお手紙を送っている。</p>		<p>ご家族参加のイベント企画している。(お花見会・敬老会等)</p>
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面談時や面会時、ご家族からの情報や利用者からの情報により、把握できる分は行なえている。また、利用者の友人や知人の面会も見られる。希望に出来るだけ添えるよう努め、外出やドライブしている。</p>		<p>行事や病院受診時、晴天時のドライブなど行なっている。</p>
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>毎朝の体操や食事時、利用者が揃うまで待っていたり、時には利用者同士声を掛け合い誘い合っている。また、仲の良し悪しに合わせ席にさりげなく配慮したり、孤立しないよう見守りをしフォローも出来ている。軽作業時の役割分担も出来ており、個別に合わせた対応になっている。</p>		<p>体調不良以外は、全利用者参加し、参加できないときには利用者の不安を招かないよう伝えている。</p>
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居になっても今後についての相談や対応に考慮している。</p>		<p>ご家族や利用者の不安を和らげられるような対応に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時や面会時、日頃の気づきの情報交換し、利用者やご家族の思いや希望を把握できるようにしている。		月1回各棟会議や申し送り時などで行なっている。
○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面談時に情報の収集をし、家族や利用者の意向に沿えるように努力している。情報収集に関しては十分プライバシーには配慮し、ご家族の協力を得ている。		情報収集にセンター方式使用し、希望の病院へ受診している。
○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間体制で利用者を観察、記録し、申し送りを行ない把握している。また、日頃の生活で色々試し、出来ることやわかる事の見極めをしている。		センター方式の使用や申し送りをし情報交換をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、日頃の様子観察や各棟会議などでの情報を取り入れ、利用者らしい生活が送られるようにしている。また、利用者、ご家族の思いや希望に添えるように担当者と計画作成者、ホーム長とで作成している。		センター方式の使用や申し送り、ご家族の希望や会議などでの気づきの情報交換を担当者がまとめて計画に活かしている。
○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しや状態の変化時などその都度行なっている。介護計画作成時には、ご家族や利用者の思いも取り入れ作成し、同意と捺印を頂いている。		センター方式の使用や申し送り、ご家族の希望や会議などでの気づきの情報交換を担当者がまとめて計画に活かしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録は個別に用意しており、計画に対して実行している。その際には、利用者の状況や気づきについて記録に残し、全スタッフが共有できるようになっている。また、見直し時記録にて活かしている。</p>		<p>実行し出来ても、出来なくても、利用者の状況と共に記録に残している。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者、ご家族の希望があれば対応するが、今のところは希望は聞かれていない。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域資源を活用できるような働きかけをしていない。また、利用者の希望も聞かれていない。</p>	○	<p>地域の方々の協力を得られるような働きかけと理解を深められるよう検討する。</p>
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>理容院と2ヶ月に1度の契約をし散髪を行なっている。</p>		<p>グループホームへ来居してくれるので、環境が変わらず戸惑いが少なくすんでいる。</p>
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>利用者の希望が今のところなく行なっていない。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、ご家族の希望の医療機関を継続し利用できている。また、ご家族の受診時には日頃の状態を報告し、受診後には結果の報告を受けている。状態の変化時医療機関に連絡し、相談できている。</p>		<p>ご家族の都合がつかない時には、スタッフが付き添い行なっている。</p>
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症専門医の医療機関を利用していないが、以前より配慮は感じられる。</p>		<p>顔なじみになれたのか声をかけてくれたりする。</p>
<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療機関利用時には、声をかけてもらったりする。グループホームへは看護師の人員はいないが、系列の事業所の看護師には相談できる体制は整っている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>体調不良にて入院になっても、入院期間が2週間以内であれば居室を取っておける体制は整っている。</p>		<p>ご家族や医療機関との情報交換は密に行なっている。</p>
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期に対応できる体制は整っていない。健康管理を行い急変時の対応については、ご家族と相談し決めている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期には対応していない</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>全スタッフが理解しているかは疑問であるが、別の場所に移り住むことが決まった際には、相手との情報交換を密に行い、不安を最小限に出来るよう努めている。</p>		<p>他施設への場合には事前にスタッフが訪れて、面談をしている。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>スタッフによっては利用者に対し、声掛けや対応に配慮が欠けている。利用者のプライバシーや個人情報に関しては、勉強会行なっているが、理解をしていないのか不適切な対応のスタッフもいる。</p>	○	<p>認知症の理解不足と技術不足があるので、理解を深められるようにし、また個人情報についても勉強会を今後も継続していく。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居時や生活の中での情報で、嗜好品を把握し、また、利用者の意思を表せるような聞き方や問いかけをしている。利用者の能力や意欲を奪わないようにし、問いかけながら行ない、利用者に決めて頂いている。</p>		<p>日々の気づきとコミュニケーションを大切にしている。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせた対応を行なうように説明はしているが、業務が優先になっていたり、対応の出来ないスタッフもいる。</p>	○	<p>利用者の視点の理解が出来る勉強会の検討をする。</p>

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の個性や好みでその日の衣服を選んだりしている。意思を表せない利用者に対しては選択できるようにしたり、普段と違う衣服を勧めて見ている。今のところ理美容院の希望はない。</p>	○	<p>外出時が主で、入浴時や日頃から毎回出来るようにしたい。</p>
--	--	---	------------------------------------

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士によって立てられており、利用者の希望にその都度に対応できてはいない。調理方法に関しては個別に合わせた対応が出来る。スタッフも毎食共に食べており、食べこぼしのある利用者にはエプロンやタオルを使用している。食後は食器洗いや茶碗拭き行なって頂いている。		ゆっくりと楽しみながら食事が出来るように献立の説明や会話を持ったり、後片付けは利用者分担任して行っており、スタッフは見守ったり、さりげなくお手伝いさせて頂いている。
○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望に添えるような体制は整ってはいない。おやつに関しては、生ものや自己管理できない利用者にはスタッフが管理することの理解を得ている。		ご家族にも理解を得ている。また、食が細くなったなどには協力も得ている。
○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者別に排尿パターンの把握には至っていないが、個々の排尿のサインは見極め案内している。尿便意の訴えない利用者でもオムツは使用せず、立位可能であればトイレでの排泄を促している。その際にはプライバシーの配慮はしている。		排泄の観察をし記録に残している。オムツの使用は最終段階に考えている。
○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限り利用者の希望に添えるよう努めている。入浴の際には今までの習慣や出来ることまでを、奪わないようにサポートしている。入浴の希望をしない利用者には無理強いはないが、3日に一度の入浴を勧めている。	○	行事や病院受診などにより、希望に添えないときがある。その際には、事情を説明している。スタッフ都合になった対応を改善できるよう検討する。
○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせた対応をしている。個々の睡眠観察と日中の活動量の観察をし、原因の追究に努めている。また、利用者個々のタイミングにて休めるようにしている。		利用者によっては、寝巻きに着替えたり、上着1枚脱いだりと個々の習慣にあわせ対応している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かしたり、意欲を引き出ししながら、個々にあった役割や余暇時間の提供をしている。		意欲が高まるように声掛けし、笑顔を引き出している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>スタッフは利用者にとってのお金の大切さを理解していると思われる。外出時や買い物時には自分で支払えるように配慮している。お金の管理に関し、利用者、ご家族との話し合いにて自己管理の金額を決めている。</p>		<p>高額な預かり金に関しては金庫にて管理している。</p>
<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>行事やドライブなど、その日の状況に臨機応変に対応し、利用者の希望に出来るだけ添えるよう努めている。</p>	○	<p>外出の必要性には理解できていないと思われるので、理解を深められるようにする。</p>
<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者の意思を引き出せない場合には、馴染みのある場所への外出を促している。また、ご家族、利用者の希望があれば添えるように配慮している。</p>		<p>お盆やお正月など自宅への帰省などご家族の協力得ている。</p>
<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望時はその都度対応し、プライバシーにも配慮している。</p>		<p>時には、ご家族からのお手紙や電話もある。</p>
<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間は決めておらず、いつでも出来る体制になっている。面会時には、利用者と同様に居室やホールでゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。また、希望に応じては、宿泊に対応する。</p>		<p>面会時にはお茶を出している。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のマニュアル作成してあり、行なわない姿勢で対応している。また、やむを得ず行なわなければならない時には、ご家族の了解を得て経過観察し、記録に残す体制が整っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時～夜9時まで開錠している。利用者の外出を妨げることはしていない。無断離所のある利用者には所在の確認をし、希望時には付き添って対応している。		利用者の不安を取り除くように対応している。
○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールにスタッフはいる体制をとっている。居室は死角にはなっているが物音には気付けるようにしている。		ホールを離れる際には一言添えてからその場を離れるようにしている。ホール出入口には鈴をつけ、対応している。
○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に対しては、保管場所や使用方法についてスタッフは把握している。また、利用者にも説明している。状況が変化した時には再検討している。危険物品に関してはマニュアルを作成している。		利用者との話し合いにてどうするかは決めている。
○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者に対して事故防止について話し合い、理解を深め対策をとっている。ヒヤリハットや事故報告書の用意もされて、報告書が出た時には情報の共有を図って再発防止の対策を取っている。		危険予知能力を高める訓練を月1回行なっている。
○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアル作成しており、スタッフに周知できている。また、応急手当や救急救命法の研修は受けている。定期的な手順について行なっている。		スタッフの勉強会に取り入れている。
○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアル作成し、年2回の消防署の協力により、通報訓練と避難訓練を日中と夜間想定にて行なっている。また、災害時に備えて非常食も用意している。	○	火災の対応は出来ているが、地震や水害など、実際に起こった時の対応は決まっていない。地域との連携の検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>利用者の状況によって起こりうる可能性のリスクには事前に報告し対策も伝えている。また、予期せぬ出来事であったことや事故に対してはその都度、ご家族に報告している。</p>		<p>スタッフで話し合い対策を立て再発を防止している。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			
<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>利用者個々の情報は把握し、特変時や体調不良時の状態の変化に気づけるよう日頃からの観察をし、記録に残している。また、状況によっては、医療機関に相談、受診の対応が整っている。</p>		<p>申し送りを確実にし、引継ぎをしている。</p>
<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服箱に個々の内服の効能や錠剤の内容を写真で入れ、誰でも確認できるシステムを作り対応している。また、飲み込み確認をしている。内服の変更時や状態の変化時は記録に残し、ご家族や主治医に相談している。</p>	○	<p>内服薬変更の続く利用者には、写真つきでは対応できずにいる。</p>
<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>スタッフは便秘の引き起こされる原因について理解できていると思われる。日中の活動量や水分量などの健康状態の把握をし、安易に下剤の使用に頼らず、自然排便に努めている。</p>		<p>排便がないのが続くようであれば、主治医に相談している。</p>
<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔内の清潔の必要性について、スタッフは理解していると思われ、利用者の個々の習慣や能力に応じた対応をしている。夕食後には義歯洗浄剤にて義歯の手入れを行なっている。</p>		<p>義歯洗浄の際はスタッフ管理し、洗浄後きれいに洗い流してから戻している。</p>
<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士により立てられている。1日の総カロリーの平均は1345～1480kcalであり、水分は1日1500mlを目指している。食事量や水分に関し記録に残している。</p>		<p>利用者の状態にもより、無理強いせず観察はしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染に関するマニュアルが作成してあり、周知できている。また、定期的に勉強会を行い、必要に応じて見直している。		感染に関する情報は玄関や台所、手洗い場に掲示している。
○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理に関しマニュアル作成して、周知でいている。また、チェック項目にて実行できている。食材に関し決められて配送されており、無駄なく使用している。		行事食など外出時の使わなかった食材は、施設内行事の時や食事にボリュームの少ないときに使用している。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物をフェンスで囲んでいる為、施設らしく近隣の方の出入りは少なく、出入りにくいと思われる。玄関周りは家庭的な雰囲気を出せるように工夫している。	○	立ち寄りやすい環境作りのほか、交流を持てるような企画の検討もする。
○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は利用者が不快にならないようにテレビや音楽の音、スタッフの音量に配慮している。また、照明も日差しを取り入れ、適切な明るさにしている。季節感の感じられる装飾をしている。		その時々に応じた、適切な対応に努めている。
○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや畳を用意し、廊下には休めるイスを置いて利用者の居場所になり、時には団欒している様子みられる。		利用者個々の好きな場所があり、時にはうたた寝している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時や面会時に馴染みの物の持込んで頂けるよう説明をし勧めている。また、居室作りは利用者と共に行なっている。</p>		<p>ご家族への理解が得られず持参が少ないが、余暇時間や買い物で少しずつ作品を増やし、利用者の落ち着ける居室作りを行なっている。</p>
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>悪臭や空気よどみは見られず、定期的に換気は行なっている。ホール内には室温計を設置し、利用者に合わせた適切な温度管理が出来るようにしている。冬期は加湿器も使用している。</p>		<p>冷暖房の調整のほか衣類調整も行なっている。</p>
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせた環境に努め、転倒など危険につながる原因は回避できるようにしている。廊下やトイレに手すりは用意されているが、利用者にあっているかは疑問である。また、補助具は利用者の状態に応じたものを使用している。</p>		<p>居室のベッドとタンスの位置、物干しの位置や高さ、歩行器や老人カー、車イスを進行方向に変えたり、使いやすく設置している。</p>
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者個々の居室への表札や共同生活場の表示をしている。利用者の混乱やトラブルはなく、適に対応できていると思われる。</p>		<p>利用者個々の大きな表札、トイレ、台所など表示している。</p>
<p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内に畑があり、野菜や花を植え、収穫をしている。また、天気の良い日には屋外にて体操や食事、散歩をしている。</p>		<p>収穫した野菜はおやつや食事時に提供し収穫を喜んだ。</p>



V. サービスの成果に関する項目

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の行事にはほとんど参加し、少しは顔なじみの関係は出来ていると思われる。また、行事の参加によって声をかけてくれるご家族や友人、知人も増えてきている。世間で言う行動障害もグループホームでの生活に慣れることで、少なくなっている。利用者の居場所作りと役割を持つことで、生きがいや利用者らしさを取り戻せるように今後も努力していく。